

自己点検・自己評価の概要

1. 教育目標

- (1) アクティブラーニングができる授業を実践する。（継続）
 - ①協同学習を基盤とした授業展開の定着を図る。
 - ②シミュレーション教育の充実を図る。
- (2) カリキュラム改正に向けた取り組みを試行する。
 - ①専門職連携教育のシミュレーションを行う。
 - ・連携校の選定し、連携の在り方を試行する。
 - ②領域横断科目の選定と学習内容の抽出を行う。
 - ③学校裁量の実習内容の検討を行う。
- (3) 授業評価の定着・活用を図る。
 - ①専門分野における授業評価の分析とその共有化を図る。
 - ②基礎分野及び専門基礎分野における授業評価を実施する。
- (4) 学校独自の教員研修体系を作成する。
 - ・新任及び中堅層の専任教員の研修プログラムの検討を行う。
- (5) 学習困難者の支援体制を強化する。（継続）
 - ①専門基礎分野の課外授業の実施と評価を行う。
 - ②専任教員による支援体制の強化を図る。
 - ・キャリア支援チームによる再試験に向けた学習支援をする。
 - ・個別の学習支援を行う。
 - ・個人及び保証人を交えた面談を随時行う。
 - ③学習困難を呈する学生の情報を共有し、早期の対応を行う。
- (6) 地域（病院等）と連携した看護基礎教育を実施する。
 - ①臨地実習施設との情報交換会を実施する。（年1回12月頃）
 - ②臨地実習施設との人事交流を行う。
 - ・TA制度を推進する。
 - ・人事の双交流（期間は3か月～1年以内）を行う。
 - ③専任教員の地域貢献活動を推進する。
- (7) 放送大学科目登録者の支援を強化する。
 - ①キャリア支援担当教員による定期的な面談及び学習支援を実施する。
 - ②登録学生間の情報交換を支援する。
- (8) 教育のICT化に向けた検討会を立ち上げる。

2. 財政体質の安定化

- (1) 毎年の収支を見極めた予算計画を立てる。
- (2) 財源確保に向けた取り組みを推進する。
 - ①退学者、休学者の増加を抑える。
 - ②スクールカウンセラーの活用を推進する。

- ・学生への周知を徹底する。
- ③受験生の確保を推進する。
- ・広報活動の工夫を検討する。
- ・高校の進路指導部教諭に対する学校説明会のあり方を工夫する。
学校説明のほかに入学前学修の実践報告
各学校の在学生からのメッセージ（動画）を入れる。

3. 組織構造の改善

- (1) 効率的な学校運営を図る。
 - ①教務部の学内組織の見直しを行う。
 - ②校務分掌の見直しを行う。
 - ・校長、副校長、教務部長、学科長 実習指導主任の業務内容の調整
 - ③目標管理（屋根瓦方式での支援体制）を徹底する。
- (2) 学内委員会活動の充実・強化を図る。
 - ①学内委員のリーダー連絡会の実施（6月 2月）を定例化する。
 - ②自己点検・自己評価規程に基づく「自己点検・自己評価書」の作成をする。
- (3) カリキュラム改正に係る活動を推進する。
 - ①教務部
 - ・現行カリキュラムの評価・見直しと新カリキュラムにおける教科目を決定する。
 - ・教育実践に必要な教材等の検討を行う。
 - ②事務部
 - ・学則等諸規定の見直しをする。
 - ・教材備品台帳の確認を行い、新たな備品の購入計画を立てる。
- (4) ワークライフ・バランスを考慮した業務を推進する。
 - ①日常業務の見直しをする。
 - ②効率的な会議運営を行う。
 - ・時間厳守
 - ・会議内容の事前把握をする。
 - ③情報伝達の効率化を推進する。
 - ・Web 活用を徹底する。
 - ・出勤時、退出時にチェックを行う。
 - ④有給休暇の計画的取得を推進する。

3. 各評価指標の概要

指標Ⅰ：教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2) 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか。	4
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

課題：①本校における看護教育の特色をより鮮明にする。（継続）

18歳人口が年々減少していく中で、看護師を目指す若者を定員数確保することは、今後一層厳しくなることが予測される。看護師を目指す若者に選ばれる学校を目指して、専門学校としての本校の特色をより鮮明にしていくことが必要。

②教員の資質向上（継続）

③自己点検・自己評価の結果を踏まえた 効率的運営と教育課程編成委員会活動の活性化

・社会のニーズを踏まえた学校の将来構想および臨床現場との緊密な関係性の中で、今後の学校教育の在り方を検討していくことが必要。

④保護者との連携を密にして教育理念等に係る効果的な周知の方法を検討する必要がある。

改善策：①課題1) について

・2022年実施予定の新カリキュラムに「地域に根差した看護学校」を前面に出し、教育内容で選ばれる看護学校にする。

②課題2) について

- ・看護教育協議会が作成した「キャリアラダー」に基づいて体系的な教員研修を計画実施する。
- ・授業評価を分析、可視化し、より効果的な教育方法を組織的に検討する。
- ・公開授業を推進する。

③課題3) について

・育課程編成委員会の開催日数、及び委員数を増やし、多方面から意見が得られるようにする。

④課題4) について

- ・後援会総会時に建学の理念及び教育目的の説明を行うと同時に教育現場が抱える課題を共有する。（5月）
- ・後援会総会時だけでなく、年2回程度の情報交換会をリモートで行う。

指標Ⅱ：学校経営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか。	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか。	4
4) 人事、給与に関する規程等は、整備されているか	4

5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4
6) 業界や地域社会等にコンプライアンス体制が整備されているか。	4
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4

課題：①地域に根づく看護学校としての情報発信を推進する。

②ICTに関わる技術職員の確保が必要である。

特に教務事務担当職員は外来講師のオンライン授業のサポートを行っているために従来の業務が滞りがちである。

改善策：①課題1) について

- ・浦添市、浦添市7自治会、JICA沖縄国際センター、浦添市医師会との連携を深める。
- ・地域活動への教職員の積極的な参加を促す。
- ・学生のボランティア活動を推進する。

②課題2) について

- ・法人本部との調整

指標Ⅲ：教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか。	4
2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
3) 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5) 関連分野の企業・関係施設など、業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか。	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）が体系的に位置づけられているか。	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか。	4
8) 職業教育などに対する外部関係者からの評価を受け入れているか。	4
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるのか。	4

課題：①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などについて

- ・マトリックスの完成と教育内容の精選を実施することができた。今後も学習内容を検証することが課題である。

②教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の

確保について

- ・実技科目の授業内容

技術テストの導入については検証を積み重ねていく必要がある。

- ・実習の内容

2016年度から実施してきた卒後1年目の卒業生(浦看カフェ)に実施したアンケート内容等を引き続き検討していく。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大によって浦看カフェでの卒業生のアンケートはできなかった。

- ・卒後3年のラダーをふまえた看護技術到達については、引き続き検討課題と考える。

③関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）の体系的な位置づけについて

- ・TAによる授業の成果を研究としてまとめることは今後継続的に検討する。

④授業評価の実施・評価体制について

- ・実習評価はルーブリック評価で体系化できたが、見直し等は継続検討する。
- ・授業科目に関しては導入に向けて引き続き検討する。

改善策：①課題1)について

- ・理念を踏まえ引き続き教育内容の検討を継続的に行う。
- ・看護教育協議会主催の平成29年度・30年度の研修（協同学習）での学びを今後も教育方法へ取り入れて実践していく。

② 課題2)について

- ・2020年度も各専門領域の科目内容や指導方法の現状と課題についての検討を行い、効果的な学修方法を実践していく。
- ・各領域の看護過程の2021年講義進度は、領域の担当者と計画通り実施できるように調整する。

指標Ⅳ：学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 進学率や就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 退学率の低減が図られているか	4
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4

課題：①休学者のほとんどが「メンタル面の問題」「学習への不安」を抱えている。

②卒業生・在校生の社会的な活動及び評価と卒業後のキャリア形成への効果の把握について今後、検討を要する。卒業時の技術到達度を把握し、卒業後のキャリア形成と比較する必要がある。

③退学理由が「進路変更」であるが、休学理由は「学習への不安」「単位未履修」などもあり、学習への支援を個別的に実施する必要がある。

改善策：①課題1) について

- ・スクールカウンセラーの配置を2019年度から担当者を追加し、2回/月に変更する。

②課題2) について

- ・同窓会と連携して卒業後のキャリア調査を実施する。
- ・卒業生の就業先での就業状況を把握し、看護基礎教育での課題を明確にしていく。技術到達度を把握する
- ・卒業後のキャリア形成の効果の把握については、アンケートなどを実施し継続的に検討していく。

③課題3) に対して

- ・キャリア教育の充実を行う。
- ・看護職としてキャリアを積むことの意義を指導するために、看護協会や認定看護師など講演会の計画をする。
- ・学習支援を個別・若しくはグループ単位で継続的に実施、学習支援を強化する。

指標V：学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
2) 学生の健康管理を担う組織体制はあるのか	4
3) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
4) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
5) 保護者と適切に連携をしているか	4
6) 卒業生への支援体制はあるか	4
7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8) 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
9) 基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
10) 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援等）	4
11) 進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4

課題：①社会人ニーズを踏まえた教育環境の整備について、把握が必要である。

②病院や市町村奨学金貸与については、把握できていない。

③他の専門学校と連携した教育の検討が必要である。

改善策：①課題1) について

- ・社会ニーズを踏まえた教育環境では、必要時対応する。

②課題2) について

- ・奨学金貸与学生の実態を把握する。（学生が直接契約している病院等の奨学金の利用状況）

③課題3) について

- ・新カリキュラムの内容として次年度試行プログラムを作成する。

指標Ⅵ：教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 施設・整備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

課題：①施設整備について

- ・学生の荷物置き場として1階の倉庫にラックを設置しクラスごとに使用しているが煩雑になりがちである。
- ・Wi-Fi環境を全館対応できていない。

②環境整備について

- ・学生の清掃は各クラスの美化委員会を中心に行っているが、隔日登校や感染対策のために美化委員会を持つことが難しく、清掃エリアの変更に関する伝達やクラス間の連携を取ることが難しかった
- ・国家試験対策期間中、1年生2年生が3年生と接触しないよう対策をとったが、視聴覚室・演習室の利用や実習の発表の教室の確保、移動の際の導線や清掃を行うか否かなど混乱が生じた。
- ・定期的な清掃チェック方法。
- ・各教室にアルコール消毒液・ペーパータオルを整備したが、短い休憩時間に加え5校時までの授業時間の延長で、十分な清掃・消毒が出来なかった。

改善策：①課題1)について

- ・1階倉庫ラックに個人ボックスを設置できるか検討していく。
- ・年度計画をもって順次設置していく。
- ・次年度予算計上をして入れ替える事を検討する。

②課題2)について

- ・清掃エリアを学生の時間割や学内実習等に合わせて変更し、各クラスの美化委員に個別で依頼する。
また、頻繁に変更があり徹底が難しかったため、次年度も清掃しやすい方法を検討していく。
- ・学内にて検討しマニュアルを作成していく。
- ・行事前の清掃で清掃担当・チェック表を作成し、各清掃エリアに美化委員をチェック係として指名した。美化委員一人ひとりに責任を持たせ行き届いた清掃を行う。
- ・学年の担当教員が声掛けを行う。

指標Ⅶ：学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生募集活動は適正に行われているか。	4
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか。	4

課題：①入学時アンケート調査結果と現状の学生募集活動とを照らし合わせた結果、本校が行っている活動は、希望者の意向に沿って適切に進められているが、入学生が本校を志望した理由を踏まえ今後更に教育内容の質を高め教育環境の整備充実に向けていく必要がある。

また、今後も感染症予防対策として広報活動が制限されることを想定し、入学希望者へ適切に情報提供を行うため、Webを活用した広報活動の検討やそれに伴う環境整備が必要となる。

改善策：①課題1) について

- ・入学時アンケート調査結果を踏まえ、進路選択の指標として重要な学校案内パンフレット、学校ホームページ、オープンキャンパスを充実させる。また、それらをWeb活用した広報活動を行う場合にも入学希望者が必要とする情報を詳細に希望に沿って伝えることができるよう、入学時アンケート調査を継続し、回答項目に適宜、修正・追加を加え充実させていく。

指標Ⅷ：財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3) 財務について会計検査が適切に行われているか。	4
4) 財務情報公開の体制整備はできているか。	4

課題：①今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で予算外の支出があった。予算執行の無駄をゼロに近づける。

改善策：①課題1) について

- ・次年度予算は新型コロナウイルス感染拡大防止を加味した予算立てを行う。また、予算の計画的かつ効率的な執行をこれからも心掛けていく。

指標Ⅸ：法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2) 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4) 自己評価結果を公表しているか。	4

課題：①様々な場面での個人情報保護の必要性について学生個々の認識が十分ではない。

対応策：①課題1) について

- ・SNSに関する特別講義は継続する。
- ・個人情報保護に係るインシデント発生時にはその都度、丁寧に説明を繰り返す。

指標Ⅹ：社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
3) 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題：①2020年度はコロナ禍で教科目の学習を担保することすら難しく、学生のボランティア活動の場を提供することができなかった。しかし、ボランティア活動は教科目だけでは達成できない体験や学びの機会であるため、次年度は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、現状で可能な形でのボランティア活動の道を探る必要がある。

改善策：①課題1)について

- ・本校のボランティア活動を活発にするために、新2年生が新入生にボランティアの体験を話す場を作っている。例年であれば1年生のボランティア活動が活発であるが、2020年度の1年生は活動ができていない。本校のボランティア活動の取り組みが途切れることがないように、経験者である新3年生からボランティア活動の体験を新1年生・2年生に伝えてもらう。

指標Ⅺ：国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4
2) 学内での適切な体制が整備されているか。	4

課題：①国際看護の授業を通しての国際交流は6年目を迎え、関係機関へ認知されるようになってきた。今後はこの体制を持続して、成熟させていく。2020年度はコロナ禍で学外者との交流を持つことが難しく、直接外国の方と会って国際交流する機会は少なかった。しかし、同時にZoomを用いた遠隔でのコミュニケーションを取ることが可能であることが分かった。学生も異文化を背景に持つ外国の方との意見交換ができたことで多くの学びを得た。次年度は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、ICTを用いた国際交流の方法を探っていく。

改善策：①課題1)について

- ・留学生への受け入れについては、法的規制を順守することが困難な状況があり、現時点では時期尚早と考える。ICTを用いて学生が国際交流できるよう整えていく。

指標Ⅻ：特別活動等

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) クラブ活動特別活動を奨励、支援しているか。	4
2) 保護者会等と連携した活動を推進しているか。	4

課題：①手話活動の拠点を学内だけでなく、地域の聴覚障害のある方とのコミュニケーションを積極的に取る場を

設ける必要がある。

②クラブ全員の参加は、時間割の都合や放課後の技術演習等があり毎週の学習会参加が困難な時期がある。

③オンライン保護者会の参加者を増やす工夫が必要

改善策：①課題1) について

・地域に学生の活動を理解し、受入れる場があるか情報を取る。

②課題2) について

・夏期休暇期間中に学生が参加できる正課外カリキュラムを検討し、実施する。

・学校行事に日頃の学習を披露し活動の場を広げる。

③課題3) について

・オンライン保護者会の際、学校の現状説明だけでなく、30分程度のミニ講座を入れる。